

生田花世 （女） 詩人、小説家、評論家。明治二十一年十月十五日徳島縣生れ、昭和四十五年十一月八日歿（二八八一—一九七〇）。本姓西崎。別名西崎花、長曾我部菊、長曾我部菊子等。明治二十八年徳島縣立高等女學校卒。四十一年上京、雑誌・新聞記者など。大正二年雑誌『青鷲』同人、翌年詩人生田春月と同棲、昭和二年『女人藝術』創刊の助勢、五年春月に死別、七年春月主宰誌『詩と人生』を復刊主宰。戦後、一十九年『源氏物語』講義會を興す。

著書『燃ゆる頭』（昭和四年四月十日中曲書房）、『近代日本 婦人文藝 女流作家群像』（昭和四年十一月十五日行人社）、『生田春月全集』全十卷

（生田博孝共編、昭和五年十一月十一日—十六年十一月十五日新潮社）、生田春月著『山家文學論』（編、昭和九年二月十五日春陽堂）『春陽堂

文庫』（、『銃後純情』（昭和十五年十月十八日道文書院）、『活の隣組』（昭和十六年六月五日鶴書房）、『教化史蹟 語種く人柱』（中

史教化團體聯合會編、昭和十六年十一月二十日新踏社）、『明かると人等調停』（昭和十七年一月十五日鶴書房）、『日本の娘』（昭和十七年七月二十一日大阪・忠文館書店）、『少國民海洋詩集』（合著・

日本青年詩人聯盟編、昭和十八年二月二十五日玉川學園出版部）、『海

國女性史』（昭和十八年七月十五日大阪・立誠社）、『一葉と時雨』（昭和十八年七月二十日潮文閣）『新傳人傳全集』（、『結婚前後』（昭和十九年二月十五日大阪・立誠社）、『未亡人』（昭和二十四年十月二十日三友社）『女性の書』（、『生



田花世詩歌全集』（安部宙之介編、昭和四十二年十月十四日神奈川・西崎靖刊、木津書房）等。

文獻、尾形ゆき江隨筆集「ゆき」の生田花世像』(昭和五十六年八月  
一日)神奈川・山脈会「山脈叢書」(一)、戸田房子著「詩人の妻 生田花  
世」(昭和六十二年十一月)二十五百新潮社)等。

